

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
77	川崎市立宮崎台小学校	大野 恵美

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
心豊かに生きる力を育む ○主体的に学ぶ力 ～かしこく～ ○自他を尊重する心 ～やさしく～ ○健康な心身 ～たくましく～ ○豊かな感性 ～ひろく～	○主体的に学ぶ力を育む学校 ○自他を尊重する心を育む学校 ○健康な心身を育む学校 ○豊かな感性を育む学校 スローガン「まずは、やってみよう！～創・磨～」	・子どもの主体性を育む教育活動の推進 ・一人一人の子どもに寄り添った児童理解の推進 ・支援体制の推進と連携 ・地域や学校の特色を生かし、社会に開かれた教育課程の編成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学ぶ楽しさや喜びを 味わえる授業づくり	・主体的・対話的で深い学びを生み出す授業の実践 ・言語活動の充実	・見学や体験を効果的に取り入れて知的好奇心が高まるようにしたり、考えたいくなるような課題や場面の設定を心がけたりする授業が増えてきている。また、学びのプロセスを意識した授業も行われている。学校全体として今後も研鑽を積んでいきたい。	○教材研究の充実 ・行事の精選や会議の効率化等に取り組み、教材研究の時間を増やす。 ・高学年では交換授業(専科化)を推進する。 ○指導法に関する情報交換や研修を行う。 ・実践等を紹介し合う機会を設ける。
2 多様な学習方法の工夫 と効果的な指導の充実	・一人一人に応じたきめ細やかな学習指導 ・指導形態の工夫 ・ICTを活用した学習活動の工夫	・子どもの学びの実態に応じて、GIGA端末等を活用した課題への取組や習熟の状況に合わせたドリルパークも行うなどの工夫した。 ・少人数指導、子どもの実態に応じて取り出し、入り込み指導等を実施しているが、希望者が増え、すべてのニーズに対応できていない。	○校内における授業見学の推進 ・互いの授業を見合い、良いものをどんどん取り入れていく教職員の雰囲気づくり ・教材研究や授業準備などを学年で行う。 ・個別指導教諭との情報交換をさらに密にする。
3 指導力・授業力の向上	・校内研究・研修の推進 ・新学習指導要領の理解の促進	・校内研究では、地域の特質を生かした単元づくりが進められた。また、その実践を職員同士が見合い学び合う姿勢も生まれてきている。夏季研修として各教科それぞれの実践を紹介し合った。	○校内研究・研修の充実 ・生活科・総合的な学習の時間の校内研究で得たものをすぐに授業に生かすとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け他教科でも培った資質能力を生かしていく。 ・カリキュラムマネジメントの充実
4 一人一人の子どもに寄り 添った児童理解の推進	・児童理解の推進 ・「学校いじめ防止基本方針」の徹底 ・一人一人が活躍できる場の設定	・校務分掌の上での支援教育COを設置し、学校全体では、養護教諭も含めた3人体制での相談体制を作った。その結果、ケース会議においても、様々な対応策について多面的に考えることができた。また、チームとして対応していくこともできるようになった。 ・年々増える個別の対応についての学校体制をさらに構築する必要がある。	○支援体制の維持・発展 ・支援教育CO複数体制の継続及び関係機関との連携強化を図る。また、教職員の児童指導における具体的な対応についての研修を推進する。 ・保護者との信頼関係がさら進むような情報提供の仕方を工夫する。
5 認め合う心の育成	・自尊感情の高まりや他者を大切にする気持ちを育む指導支援 ・規範意識や人と関わる力などの社会性を育む指導支援 ・集会やたてわり活動等のふれあいの場の拡充 ・読書タイムや読書活動の充実	・異学年交流や地域の方とのふれあいなどは、自尊感情や他者を思いやる気持ち、社会性を育むよい機会となっている。 ・ふれあい活動に関しては、時間の設定など整理していく必要がある。	○高め合う関係の構築 ・共に創り上げていく活動を意識的に取り入れ、成就感や達成感等を味わえるようにしていく。 ○かわさき共生☆共育の充実 ・活動の意味を確認し、時期や内容を吟味する。 ○人権尊重教育の推進 ・子どもの権利学習の推進

6	健康・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、委員会活動による体を動かす機会を設定することができ、たくさんの子どもが参加し体を動かすことができた。GIGAスクールに関して外遊びの機会が減っていることを受け、校内のルールの見直しを行った。 ・校庭や体育館は児童数に対して狭いので、場の設定の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かす機会の設定 ・委員会活動や学年集会などの日程を調整し、体を動かす機会が年間を通してもてるよう工夫する。 ・委員会の企画だけでなく、学年・学校全体の取組についても検討する。
7	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや言葉遣い等の指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては、一人一人が意識をしはじめ、自分から先に挨拶する子やお辞儀をする子などが増え、あいさつの声が響くようになった。 ・言葉遣いについては、学年によって差があるが、相手を意識した行動に関しては、継続的に指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員・保護者・地域の方との連携 ・機会をとらえ、三者とも同じように言葉遣い等について指導していく。 ・あいさつについては、まずは大人が範を示す。また、よいきっかけとなった委員会活動や学年での取組をサポートしていく。
8	支援体制の確立と推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童支援COを中心とした組織的な対応 ・教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育COを3名体制にしているため、迅速で個に応じた対応ができている。また、担任とCoの連携もすすんでいる。しかし、特別な支援を要する子どもが多い現状では、個別指導等の部屋や対応する教員数が足りず苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援体制の維持・発展 ・支援教育CO2名体制の継続及び関係機関との連携強化を図る。また、教員の指導力のさらなる向上をすすめる。 ・保護者との信頼関係がさらに進むような情報提供の仕方などを工夫する。
9	事件事故への適切かつ迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・事件事故等の未然防止と迅速な対応 ・日常的な校内環境整備 ・非常時を想定した準備と訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・事件事故対応については、未然防止を基本に迅速な対応ができてきている。 ・安全点検や避難訓練等を定期的に行っているが、校舎が古く教室のドアなどは危険な箇所が多い。職員室前をPTAと連携して整備でき、使いやすくなった。、大人の意識の改善もまだまだ必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の共通理解 ・児童理解に関わる機会を継続していく。チームで対応できるよう常に共通理解を図っておく。 ○市教委との連携 ・校内で対応できるところは速やかに行う。それ以外については、市教委への報告等をより迅速行っていく。
10	地域や学校の特色を生かし、社会に開かれた教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や諸機関等との連携 ・総合的な学習の時間を中心とした地域学習材の掘り起こし ・地域を含めた外部講師との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、農作物の収穫体験など屋外の活動に限定して地域の方との交流を行った。 ・今年度は、校内研究を中心として地域との連携が多くできたので、今後も活動を継続していく。 ・5年、6年、手芸クラブがモチーフエスで出店をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方の思いを大切に学習の構築 ・様々な活動はそれぞれの方の思いの元に行われている。それらを子どもに伝えることにより、より主体的な活動につながるようにしたい。 ・子どもたちの主体的な活動を後押しするとともに、たくさんの人に支えられていることに気付かせる活動も行っていく。
11	日常的な校内環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下等の整理整頓を行い、子どもたちが学習しやすい環境整備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導部会と環境整備部会から、校内清掃に対して具体的な取組を推進し、職員一人一人の意識を高めるために、呼びかけを行ったが、日々の忙しさの中では後回しになってしまったため、整備の時間を設定して意識付けを図った。 ・児童会の目標も同じ意識となり、学校全体で取り組む体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の共通理解 ・昨年より、環境整備が進んだ。環境整備の時間を作ることによって、教職員や児童の意識がさらに高まるように児童会活動とも連携して行っていきたい。 ○清掃の徹底 ・校務分掌を中心に、具体的な整備方法を示し実行していく。

12	多様な人とのかかわりを大切にした教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育園との交流 ・中学校との小・中連携事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・異校種とのかかわりについては、1年生が、幼稚園との交流を今年度も行った。子ども同士のつながりができ、良い活動となった。また、6年生は、中学校での体験学習を行った。今後も継続して行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連携の充実 ・中学校とは、可能な範囲で授業研究を参観するなど、指導の継続につながるような機会を設ける。 ・幼稚園や保育園については、情報交換を複数体制で行っていく。
13	読書教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや朝読書の推進など、図書ボランティアと連携して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は保護者による「お話タイム」を実施することができた。読書活動は継続して行っている。 ・図書館司書さんと連携した読書活動をさらに推進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果からGIGAスクールの推進と同時に読書活動の推進も進めていきたい。情報の収集の仕方に関しては、それぞれのよさが分かるような指導の仕方も考えていく。
14	開かれた学校のための情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信の充実 ・学校評価の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPは例年以上に活用して学校の様子等について情報発信をした。また、学校日より、学年だよりを前月20日ぐらいに配付し、予定を早く伝えていくことに努めた。 ・学校評価については、アンケートだけでなく、さまざまな場をとらえて保護者や地域の方の考え等の把握に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の充実 ・HPについては、さらに見やすさを意識した構成にする必要がある。また、後半更新できなかったのも、校務分掌の見直しも必要である。 ○学校評価の充実 ・教職員がより活用できるように、結果や改善点等を具体的に話し合う必要がある。
15	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の働き方を意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の残業時間を把握し、1週間のスケジュール管理ができるようにした。また、会議の精選や終了時刻を意識するなどに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の意識改革 ・来年度は50周年行事もあることから地域と協力して、みんなでお祝いをしていきたい。また、人とのつながりを意識した単元開発を更に進める。
16	学校評価に基づいた学校改善	<ul style="list-style-type: none"> ・評価から見えてきたことを可視化し、職員全体で把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を真摯にとらえ、改善すべきところは年度を待たずにすぐに改善していく。また、来年度の学校経営計画に反映させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会の前に15分ほどの報告会の時間を設定し、結果を伝えた。 ・学校運営協議会でも結果をお伝えし、意見交流ができた。課題等も共有し、今後も連携して子どもたちの支援体制を構築していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の50周年行事を踏まえ、地域とのつながりを意識した教育活動が進んでいることをうれしく思っている。学校の積極的な活動に感心した。子どもたちの発表もはっきりと自分の意見を言い、成長している子どもの姿に感心した。 ・登下校時のあいさつは、以前よりできるようになってきているが、継続的な指導支援が必要である。 ・安全・安心な環境をつくるためには、学校・保護者・地域の連携が大切である。これからも地域としてできることを行っていきたい。 ・子どもに対しては、正直であることの大切さを伝えていきたい。同時に子どもを育んでいく中においては、結果だけではなく、そのプロセスを大事にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動の成果は、「子どもたちの姿」や「子どもたちの声」であると考えている。アンケート結果は今年度も概ね好評の高い数値となっているが、昨年度と比較すると、「とても思う」から「思う」の評価が少し増えた項目がある。なぜ、変化したのかを探っていく必要がある。その中で、休み時間の過ごし方については、委員会活動を中心に、体を動かす機会が増えたことが数値に表れた。GIGA端末の活用の仕方等を見直したことも要因の一つであると考ええる。また、教職員の授業力の向上については、今年度も生活科・総合的な学習の時間の校内研究で地域素材を生かした単元づくりに取り組んだ。地域の方と連携した単元づくりが昨年度よりもさらに進み、大胆な探究的な学習活動を展開することができた。 ・来年度に向けては、経験の少ない教員の割合が大きいことから、これまで以上に職員同士で互いの授業や業務を見合うなど、校内OJTを進めていきたい。また、子ども同士の学び合いにおける教師の出どころを確認し、指導すべきこと、子どもが主体的に行うことなどを見極め、子どもの学びを支えていく必要があると考える。 ・個別に対応の必要な児童に対しては、指導の充実に向けた具体的な手立てを共有するための場の